



孫文2015特別展「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」

昨年の孫文月間「孫文2015」では、『シンガポール孫中山南洋記念館（晩晴園）』から出展をいただき、「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」を10月31日から11月29日まで開催致しました。



展示室の様子。

展示は「シンガポールと辛亥革命」、「シンガポールにおける孫文足跡の旅」の二部構成でした。「シンガポールと辛亥革命」では、孫文や辛亥革命を支持したシンガポールの華人たち、特に別荘「晩晴園」を孫文の活動に提供した張永福、その甥で同じく孫文に協力した林義順、シンガポールで中国同盟会分会の会長などを務めた陳楚楠を中心に紹介されました。とくに孫文が辛亥革命後に林義順あてに

送った旌義状（感謝状）や、日本の宮崎滔天のご遺族のもとに遺されていた、中国革命家たちの寄せ書きに張永福の名前が入っていた展示が印象的でした。

「シンガポールにおける孫文足跡の旅」では、孫文が訪れたシンガポールの各地について、当時と現在の写真を対比させて紹介されました。再開発などで当時とは大きく様子が変わった場所もある一方で、孫文たちが革命の演説を行った劇場や、孫文が最後にシンガポールを訪れた際に宿泊した邸宅、そして晩晴園（今の孫中山南洋記念館）など、当時の様子を今に残す場所もまだ多く残っています。



シンガポール現地の華人たちが使った食器の展示。

目 次

孫文2015特別展「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」・・(1)	故員原名誉会長を偲んで・・・・・・・・・・・・・・・・(4)
「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」開会式典、講演会・・(2)	兵庫県立神戸商業高校と移情閣・・・・・・・・・・(4)
「孫文2015」ワークショップ『「朝日新聞」報道・歴史写真アーカイブから見る孫文」・・・・・・(3)	記念館ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・(4)
兵庫大学エクステンション・カレッジ講座「革命家『孫文』ーその時代と21世紀からみる歴史的評価」・・・・・・(3)	第27回孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議に参加して・・(5)
2016年「孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム」開催につきまして・・・・・・・・・・(3)	孫文研究会通信・・・・・・・・・・・・・・・・(5)
	公益財団法人孫中山記念会役員表・・・・・・・・・・(5)
	移情閣友の会通信・・・・・・・・・・・・・・・・(6)
	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・(6)

「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」 開会式典、講演会 (2015年10月31日)

孫文2015「百年を振り返る 孫文とシンガポール展」の開催に合わせ、特別展の初日にあたる10月31日に標記の開会式典及び講演会を開催しました。

開催に先立つ10月30日、陳子宇・シンガポール国家文物局副局長を団長とするシンガポール・孫中山南洋紀念館の訪問団一行は兵庫県庁を表敬訪問し、兵庫県側では石井孝一産業労働部長が応対されました。



陳団長（向かって左）と石井産業労働部長（同右）。

翌31日はまず孫文記念館・孫文銅像前で開会式を行い、シンガポール孫中山南洋紀念館の葉璞副館長からご挨拶をいただき、続いて当館の安井三吉名誉館長、愛新翼館長から挨拶をしました後に、展示会記念板の除幕式を行いました。



開会記念式典除幕式。

その後、会場を舞子ピラ別館・大歳の間に移し、記念講演会を開催しました。最初に斎藤正寿・兵庫大学生涯福祉学部准教授より「孫文が呼吸した『時代の空気』とは何だったのか」という題目でご講演をいただきました。この中で斎藤先生は近代の世界で起きた「ナショナリズム」について、ある集団が自発的に「国民」そして「国家」を形成していく「国民主義」と、既存の「国家」が統治下の人々を上から「国民」として統合して行く「国家主義」、そしてある集団が既存の「国民国家」に満足できずに独立を目指す「民族主義」の3つに分類し、近代の中国や東南アジアで起きたナショナリズムとは第三の「民族主義」であったと指摘されました。孫文は第三類型の「民族主義者」として、まず自分たちの「民族」の範囲を決める仕事と、自分

たちの「民族」の政権を作る仕事を課せられていたこと、さらに孫文はフィリピン独立運動のホセ・リサルなどと同じく、外国語の習得や西洋近代教育を受容する中で、自分たちの「民族」の範囲を語る能力を得たことを強調され、孫文を理解するには当時の時代の文脈と時代の空気のなかに彼の人生を置きなおし、孫文が「時代の子」であると同時に、「時代を変えていった」人物であったことを見る必要がある、とお話しされました。



講演される斎藤准教授。

引き続いて、シンガポール孫中山南洋紀念館学術顧問で、シンガポール史研究者の柯木林氏が「孫文とシンガポールの辛亥革命に関わった人たち」というテーマでご講演されました。柯先生はシンガポールの人たちと孫文・辛亥革命との関係について、先ずシンガポールの華人移民社会では明朝滅亡以来の反清思想がもともと残っていたことや、シンガポールにおける中国革命の支持者たちはメディアや革命運動の基地を孫文側に提供したこと、シンガポールにおける孫文の協力者たちは比較的若く、裕福でかつ高度な教育を受けた人物が多い事実を説明されました。そしてシンガポールでは孫文に反対する勢力や、孫文を監視する植民地当局の動きもあったものの、シンガポールの革命支持者たちは革命思想の普及をはかるとともに、運動資金を提供するなど、重要な役割を果たしたとお話しされました。

講演会には約40人のご参加をいただきました。講演会の後、同じ会場で懇親会を行い、日本・シンガポール間の懇親を深めました。



講演される柯木林氏。

・シンガポール孫中山南洋紀念館訪問団

陳 子宇（ちん・しゅう／シンガポール国家文物局副局長）
葉 璞（よう・ぼく／孫中山南洋紀念館副館長）
羅 冰玲（ら・ひょうれい／シンガポール国家文物局文物機構司長）
柯 木林（か・ぼくりん／孫中山南洋紀念館学術顧問）
嚴 孟達（げん・もうたつ／同上、『聯合早報』前総編）
（敬称略）

（研究員：村田省一）

「孫文2015」ワークショップ『『朝日新聞』報道・歴史写真アーカイブから見る孫文』 (2015年11月21日、於KCCビル)

昨年11月21日、孫文月間「孫文2015」の一環として、標記イベントが孫文研究会の主催で開催され、当館より安井三吉名誉館長、西村成雄副館長、蔣海波研究員、村田省一研究員が報告を行いました。

まず「朝日新聞(1895.11-1913.6、1925.2-)」掲載の孫文の写真について「『聞蔵Ⅱ』を中心に」(安井)、「1920年代前半の『東京朝日』孫文写真報道」(村田)、「孫文亡き後のシンボル化された孫文」(西村)、の順で報告が行われ、孫文の生前から現在に至るまで、孫文がどのように画像で日本に紹介されてきたかを、『朝日新聞』紙面や、同紙の保有する歴史写真アーカイブから紹介しました。続いて蔣研究員から『『朝日新聞』から見る孫文の日本観—各種テキストの照会を中心に』の報告が行われ、『朝日新聞』記事から、孫文の対日本観などを示すテキストの比較を通じて、孫文思想の動態解明の分析がなされました。

今回の成果を基に、今年の孫文月間「孫文2016」特別展で、孫文に関する図像をテーマにした展示を行うことを検討しております。
(研究員：村田省一)



ワークショップ会場の様子。

兵庫大学エクステンション・カレッジ講座「革命家『孫文』—その時代と21世紀からみる歴史的評価」

昨年の秋にかけて、加古川市にあります兵庫大学エクステンション・カレッジにて標記の連続講座が開催され、当館の関係者も講師として参加しました。日程は以下の通りでした。

- ・ 10月13日 愛新翼「中国近代化過程における孫文の影響」
- ・ 10月20日 斎藤正寿「孫文が生きた19世紀後半～20世紀初頭の国際社会を俯瞰する」
- ・ 10月27日 蔣海波「孫文と神戸華僑社会」
- ・ 11月10日 陳來幸「孫文とグローバルネットワーク」
- ・ 11月17日 安井三吉「20世紀中国のなかの孫文の活動とその評価を考える」
- ・ 11月24日 西村成雄・村田省一「孫文記念館参観—孫文イメージの可視化へ」

11月24日は受講者の方が当館を参観され、西村副館長と村田研究員で館内の案内を行いました。

(研究員：村田省一)

2016年「孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム」 開催につきまして

2016年、孫文の生誕150周年を迎えるにあたり、日本で唯一の孫文記念館を擁する神戸においては、(公財)孫中山記念会的主催で国際学術シンポジウムを開催いたします。

このたびのシンポジウムは、「孫文とアジア太平洋—ネーションを越えて」をテーマといたします。本テーマを設定するにあたっては、「孫文を単に過去の思想家・革命家として扱うのではなく、あくまでも現代から未来に向けて、孫文が提起した問題を日中両国共同の課題として追求する」という1985年以降の課題を継承し、さらに2011年の辛亥革命100周年記念国際シンポジウムで浮き彫りにされた「現代の東アジアが直面している共同の課題」を、現代における孫文研究の課題として継承することを念頭に置きました。

本テーマに対し、さまざまな異論が提出されるであろうことは想像に難くありません。「アジア太平洋」とは具体的にどの地域を対象とするのか、超えるべき「ネーション」とは民族であるのか国民国家であるのか等々、テーマの用語それ自体が議論の対象となりえます。しかし私たちはこのテーマが指し示す内容を厳密に定義することは敢えていたしません。なぜならば「アジア」「太平洋」「ネーション」のいずれもが、まさに孫文が生きた時代に初めて、人々の意識の中に明確に立ち現れ、さまざまな意味を付与されながら現代に至っている問題系の重要な一部をなすからです。私たちはこれらを、政治のみならず社会、経済、文化など多角的な観点から再検討することを通じて、孫文から現代にいたる諸問題の解明を試みます。

(本文は当シンポジウムホームページから抜粋転載。)

孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム

「孫文とアジア太平洋—ネーションを越えて」

1. 日程 2016年11月26日(土)、27日(日)
2. 場所 神戸大学統合研究拠点
(神戸市中央区港島南町7-1-48)

3. 主催団体など

主催：(公財)孫中山記念会

共催：日本孫文研究会、神戸華僑華人研究会

※詳細や報告者公募につきましてはシンポジウムHP・
<http://s150kobe.com> をご覧下さい。



シンポジウムホームページより。

故貝原名誉会長を偲んで

（公財）孫中山記念会理事長 齋藤富雄

平成26年11月に逝去された前兵庫県知事であり孫中山記念会名誉会長だった故貝原俊民さんを偲ぶ会が、昨年11月16日に行われ、私も出席してきました。貝原さんと親交のあった約220人が参加し、スクリーンに映し出された在りし日の姿を皆で懐かしく思い出すとともに、兵庫の様々な分野に残した功績に改めて感嘆しました。



故貝原俊民さんを偲ぶ会の様子。

貝原さんは、孫文記念会にとっても、その設立に大きな役割を果たすとともに、2004年から11年までの7年間には理事長として、記念会の発展に尽力してくださったかけがえのない方でした。

この会に参加し、貝原さんに改めて思いを馳せ、貝原さんの名に恥じぬよう当記念会を盛り立て、未長い日中友好の礎となるべく精一杯頑張っていきたいと思いを新たにいたしました。



故貝原俊民・孫中山記念会名誉会長。

兵庫県立神戸商業高校と移情閣

昨年の10月6日、神戸市垂水区にあります兵庫県立神戸商業高等学校の一行が当館を訪問し、在校生の方に向けて同校のOBの方による講演が移情閣で行われました。同校は1878年に開校され、1928年以降は兵庫県立第一神戸商業学校という校名でしたが、アジア太平洋戦争の末期、1945年6月5日の神戸大空襲後、6月7日から移情閣に校舎を移転していたことがあり、今回はそのご縁によるものでした。校舎移転の際に当時の生徒の方がリアカーで学校の資材を運んだことにちなみ、当日は在校生の方が実際にリアカーを引いて学校から移情閣まで来訪されました。

移転から遡ること4か月前の1945（昭和20）年2月、同校の校舎は東京から疎開してきた海軍経理学校に接收されました。同校は他校舎へと移転することになりますが、移転先が2度までも空襲の被害を受け、6月に移情閣へと三度目の移転となりました。しかしここも当時は防衛隊（民間人

が臨時に徴募された部隊）が警備に使用しており、学校生徒は移情閣の建物内に入ることができず、やむを得ず舞子公園の松林で授業を行うなどといった状況でした。その後、9月1日に経理学校の廃校により接收が解除され、学校は元の星陵台の校舎へと復帰しました。

当日は3人のOBの方が在校生に向けて講演し、在学中に戦争となり軍需工場に勤労働員された際に空襲を受け、動員学生に多くの犠牲者が出たことや、動員されなかった下級生も戦争の激化に伴い相次ぐ校舎の移転にあったことなどをお話しされ、平和時に在学することの貴重さを訴えました。（研究員：村田省一）



移情閣で講演される兵庫県立神戸商業高校OB。

記念館ニュース 〈2015年7月～12月〉

- ・7月28日、日中若手歴史研究者セミナー一行（公益財団法人笹川平和財団笹川日中友好基金の引率）が来館。
- ・8月1日、「中国語で学ぶ中国故事とその原典」愛新翼館長・第三回開催（於移情閣）。
- ・8月12日、茨城県高校教育研究会一行が来館。
- ・9月6日、久元喜造神戸市長が来館。
- ・10月3日、「中国語で学ぶ中国故事とその原典」第四回開催（於移情閣）。
- ・10月28日、中国宋慶齡基金会より唐聞生副主席一行が来館。唐氏は毛沢東の英語通訳を務められてました。
- ・11月22日、台湾僑務委員会より信世昌副委員長一行が来館。
- ・11月24日、兵庫大学エクステンション・カレッジ講座「革命家『孫文』」受講者一行が来館。
- ・12月5日、「中国語で学ぶ中国故事とその原典」第五回開催（於移情閣）。



当館を見学する久元喜造神戸市長（向かって左側）。

第27回孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議に参加して

第27回孫中山・宋慶齡紀念地聯席會議は昨年11月23日より中国・重慶に於いて開催され、中国はじめ、日本、台湾、アメリカ、シンガポール、マレーシアなど世界40の孫文関連の記念館、93名の代表が参加しました。開会式では主催者側を代表し、重慶中国三峡博物館副館長の張栄祥氏が開会の挨拶を行い、本会の目的と会議の審議内容などの説明がありました。

大会は3日間の日程で、初日は各地代表13名による各地記念館の抱える問題などを報告し、二日目は2016年の開催地などを主なテーマとして討議しました。

孫文生誕150周年を祝う2016年は、首都北京と、孫文生誕の地である広東省中山市翠亨村の孫中山故居記念館の二か所で記念大会をとり行うことに決まりました。



(館長：愛新翼) 第27回会議に参加した愛新館長。

孫文研究会通信

*2015年度(7~12月)活動

- ・孫文研究会秋季特別講演会：10月31日(土) 舞子ピラ特別講演会「孫文とシンガポール」
「孫文が吸った『時代の空気』とは何だったのか」
(斎藤正寿：兵庫大学生涯福祉学部准教授)
「孫文とシンガポールの辛亥革命に関わった人たち」
(柯木林：シンガポール孫中山南洋紀念館学術顧問)
- ・孫文研究会秋季特別例会：11月21日(土) KCCビルワークショップ「『朝日新聞』報道・歴史写真アーカイブから見る孫文」
「朝日新聞(1895.11-1913.6、1925.2-)掲載の孫文の写真について ―「聞蔵Ⅱ」を中心に―」(安井三吉：孫文記念館名誉館長)
「1920年代前半の『東京朝日』孫文写真報道」(村田省一：孫文記念館研究員)
「孫文亡き後のシンボル化された孫文」(西村成雄：孫文記念館副館長)
「『朝日新聞』から見る孫文の日本観―各種テキストの照合を中心に」(蔣海波：孫文記念館研究員)
- ・『孫文研究』第57号発行(12月18日)

*2016年度(1~6月)活動予定

- ・2016年度孫文研究会総会、冬季例会：
1月11日(月・祝) 中華会館
研究報告「Reconceptualizing Asia for the Fight against Imperialism: Chinese Asianism and Its Influence across East Asia, 1924-1945.”
(Craig Smith：京都大学人文科学研究所研究員)
- ・『孫文研究』第58号発行(6月30日予定)
(孫文研究会代表理事：緒形康)

公益財団法人孫中山記念会役員表

2016(平成28)年1月1日現在、順不同

・理事長

齋藤 富雄(公益財団法人兵庫県国際交流協会理事長)

・副理事長

愛新 翼(神戸中華同文学校名誉校長)

西村 成雄(大阪大学名誉教授)

・常務理事

中村 伸彦(公益財団法人孫中山記念会事務局長)

・理事

安井 三吉(神戸大学名誉教授)

新 尚一(神戸日華実業協会会長)

塚原 淳(兵庫県県土整備部まちづくり局
公園緑地課長)

片山 啓(特定非営利活動法人アジア経済知識交流会
常務理事)

黄 磷(神戸大学大学院経営学研究科教授)

陳 光輝(神戸大学大学院国際協力研究科教授)

岡本 望(川崎重工業株式会社理事総務本部長)

松田 高明(神戸市市長室国際交流推進部長)

石田 勝則(兵庫県産業労働部国際局国際交流課長)

林 同福(神戸中華同文学校理事長)

・評議員

五百蔵俊彦(公益財団法人兵庫県園芸・公園協会会長)

石川 禎浩(京都大学人文科学研究所教授)

太田 和成(兵庫県神戸県民センター センター長)

植松 賢治(公益財団法人神戸国際協力交流センター
常務理事)

岡田 徹(兵庫県産業労働部国際局長)

緒形 康(神戸大学大学院人文学研究科教授)

陳 來幸(兵庫県立大学経済学部教授)

河合 純子(公益財団法人兵庫県国際交流協会友の会
理事)

加藤 弘之(神戸大学大学院経済学研究科教授)

近藤 薫(株式会社神戸製鋼所総務部担当役員補佐、
兼大阪支社長)

平木 秀男(兵庫トヨタ自動車株式会社
取締役総務部長)

湛 沛綸(一般社団法人中華会館副理事長)

陳 明德(神戸華僑総会副会長)

鮑 悦初(神戸華僑総会会長)

吉見 隆(株式会社三井住友銀行公共・金融法人部
(神戸)部長)

・監事

梶谷 懐(神戸大学大学院経済学研究科教授)

莊 天輝(神戸華僑幼稚園理事長)

移情閣友の会通信

* 行事報告

・移情閣まつり2015&交流会…10月10日(土)

移情閣・庭園・舞子公園芝生広場

「中国文化と音楽を楽しもう」をテーマに、中国茶会・中国剪紙(切り絵)展示、中国物産販売・バザー、二胡体験などを実施。今年は、兵庫県立舞子公園秋の芸術祭・5館合同フェスティバルと同時開催。特設舞台では、KFC神戸秧歌隊による華麗な秧歌踊りのあと、太極拳同好会による演武。マジックショーを挟んでコーラス同好会と二胡同好会が出演しました。



移情閣まつり。

館内では、音楽と中国文化公開講座などを開催。コーラス、二胡演奏のほか、論語と漢詩を学ぶ同好会の瀬田慶太郎さんは「孔子の衣食」について、中国文化同好会の橋雄三さんは「中国苗族の里を訪ねて」について講演しました。最後は中国語漫才「相声」で締めくくりました。囲碁同好会と中華同文学校校友会は2階で交流戦が行われました。

出演者など66名と一般来館者90名の参加があり、地域との交流を深めることができました。また、打ち上げ会は、実行委員・協力員、中国留学生など、計32名が参加しました。



コーラスの合唱(左)と二胡の演奏(右)。

・孫文2015 音楽と講演の会 11月15日(日) 移情閣

14時より移情閣1階にて開催、総勢82名が参加されました。音楽の部は、コーラス同好会による中国語と日本語の歌を披露し、最後に参加者といっしょに「かけ橋舞子の移情閣」を合唱しました。

続きまして、二胡同好会による「移情閣組曲」などを演奏、アンコールは「賽馬」という曲で馬の愉快的な鳴き声が飛び出て愉快でした。

講演の部では、兵庫県立大学経済学部教授の陳來幸さんに、「孫文時代の神戸華僑—新参客家と台湾商人を中心に—」と題してお話をいただきました。孫文と神戸華僑、またその時代の新参客家と台湾商人にまつわる話は大変興味深いものでした。



陳來幸先生の講演。

・第3回孫文学勉強会…12月12日(土)

2階講義室 講師：蔣 海波さん(孫文記念館研究員)

演題：「孫文と中華民国の制度設計」について、実施しました。

今後の予定

・2016新春のつどい…2016年1月31日(日) 11:30-14:00

会場：天安閣(神戸駅前) 参加費：3,000円

第一部 講演と講習

演題：「中国食文化と中華料理」

講師：鮑 悦初さん(神戸華僑総会会長)

講習：「家でできる本格中華！」

講師：畑 啓喜さん(天安閣料理長)

第二部 懇親会

・孫文学勉強会…1月16日(土) 15:00-16:00 2階講義室

講師：蔣 海波さん(孫文記念館研究員)「孫文と国民革命」について

・孫文学検定…3月12日(土) 15:00-16:00 2階講義室

ふるってご参加下さい。

(移情閣友の会企画運営委員長：後藤みなみ)

編集後記

昨年の孫文月間「孫文2015」では、「百年を振り返る孫文とシンガポール展」が開催され、孫文とシンガポールとの歴史関係についてご紹介することができました。今回も多くの方にご来場をいただきありがとうございました。

今年2016年は、1866年の孫文生誕から150周年に当たります。(公財)孫中山記念会では、これを記念して「孫文生誕150周年記念国際学術シンポジウム」を11月に開催致します。「孫文とアジア太平洋—ネイションを越えて」のテーマで、国内外から孫文に関連する研究者をお招きし、様々な観点からご報告をいただく予定です。今年も当館へのご支援をよろしくお願い致します。(M・S)

第15号訂正

3頁左11行目 誤「高木健一郎」 正「高木誠一郎」

孫文記念館館報 『孫文』

第16号 (2016年1月29日発行)

発行者 公益財団法人 孫中山記念会

〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051

Tel : 078-783-7172 Fax : 078-785-3440

e-mail : sunwen20@aiores.ocn.ne.jp

URL : <http://sonbun.or.jp>

(題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは縦書き)